

2017年度 ユース活動報告書



作成:ユース実行委員

目次

編集前記—作田 成美

- 1、 事業報告
- 2、 IFCO 世界大会の感想
- 3、 東京 ユースの集まり (夏)
(日程チラシ等)
- 4、 滋賀 ユースの集まり (夏)
(日程チラシ等)
- 5、 12月16日 オリンピックセンター
リーダー会議
- 6、 フェイスブック
- 7、 新年会 1/27,28

東京、静岡—体験発表

編集後記—林 櫻

編集前書き

作田 成美

2017年度も無事にユース活動ができましたこと、大変嬉しく思っています。今年度も、関係者の皆様には大変お世話になりました。ユース代表としてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今年も西日本・東日本ユースの集い、IFCO マルタ世界大会、ユースリーダー会議にて多くのユースが新しく出会い、新しい発見をして絆を深められた1年でした。

また、ユース1人1人が少しずつ成長していることを感じました。

来年度も精一杯頑張りたいと思います。

今年度のユース活動（西日本・東日本ユース集い／IFCO マルタ大会／ユースリーダー会議）の報告書を作成しましたのでご覧ください。

～平成 29 年度 ユース事業報告～

4月30日（土）新宿にてユース新年会

8月19日（土）～20日（日）飯田橋にて東日本ユースの集い
" 滋賀県にて西日本ユースの集い

9月20日（土）九段下にて IFCO マルタ大会勉強会

10月30日（月）～11月6日（月）IFCO 世界大会（マルタ島）

養育家庭体験発表会

・10月18日（水）昭島市

・11月18日（土）品川区

・11月20日（月）新宿区

・11月25日（土）小平市

10月15日（土）飯田橋にて児童部会 体験発表

12月16日（土）国立オリンピックセンターにてユースリーダー会議

H,30年1月12日（金）静岡市にてキャリアカウンセリング勉強会

1月14日（日）国立オリンピックセンターにてユース活動報告会

1月27日（土）～1月28日（日）東京



IFCO 世界大会(マルタ)

マルタと IFCO について

林 櫻

私は、初めてマルタに行きました。マルタは、イタリアの下にある小さな国です。

首都はバレッタ。銅像や教会が多く、石作の建物が印象的でした。

また、気象は雨季で突然のスクールにびっくりしました。日本は地震大国ですが、マルタは地震がないので、石作りの建物ができるということも驚きました。料理はたこや魚などの海鮮料理や牛肉や豚肉など肉料理が美味しかったです。そして、IFCO にも初めて参加しました。

今回の IFCO では日本、オーストラリア、イタリア、カナダ、アメリカなどの沢山の国から大勢の里子や元里子のメンバーが集まり、私の国ではどの位の人が社会的養護の立場かを調べて紙に書き、皆の前で発表し他の国の人はどうなのかなどを、発表を通じて国際交流をしました。

私は英語が乏しくて、全然出来なかったことが悲しかったですが、参加者の多くは英語を話していて、私も英語を頑張らないといけないと感化されました。

私がマルタに行って嬉しかったことは、持病の気管喘息の発作や色々な病気を防ぐために、主治医の診断書や様々な薬を持っていきましたが、現地の病院に行くような大事にならなかったことです。また、マルタの人はおっとりしていて、ゆっくりとした時間を過ごせたのもいい思い出になりました。私はマルタで楽しかったことは、市内観光です。人生初めて馬車に乗ったりボートで青の洞門という観光スポットを見たり、海の底まできれいに見える海に感動したり、わくわくどきどきの1週間でした。

今後、もし IFCO に参加することがあったら、要望したいことがあります。IFCO の全日程に通訳が必要と考えます。理由は、IFCO の会議や活動は英語が分かる人でも、専門的な用語が多く、きちんと理解している人が少ないと感じたからです。また、今回のマルタ旅行全体の要望もあります。今後、IFCO に外国籍の人を連れていく場合は、日本で使用している名前とパスポートの名前が違うことがあるので、事前に登録している氏名を関係者から伝えてほしいです。私はその一言があれば、IFCO でも安心することが出来たと思います。今後は、細かい配慮をしていただけたら幸いです。色々なことがあった1週間でしたが、喜怒哀楽のすべてが大切な宝物です。関係者の皆様にはご多忙の中、様々なところでお力添えをいただきありがとうございました。



今回初めて、ユースの仲間たち7人と、世界大会で地中海のマルタ島へ行きました。そこで、世界の子ども達との交流会で、各国の福祉のあり方や代表の人の体験談を聞いたりして、日本の社会的養護は遅れているなど感じました。

アメリカでは、政府が社会的養護の現状を理解していて子どもたちも暮らしやすそうで生き生きとしていて、自分の置かれている状況を理解できている子が多かったと思います。また、措置解除できる年齢も18歳か21歳かで子ども自身が決められると言う所がうらやましいと感じました。私が感じたのは、措置解除が18歳なのに成人が20歳というのが不思議に思っていて、成人年齢も18歳にするのが妥当かと思いました。最後に、今回の世界大会を通して、世界の福祉の現状が進んでいて、日本の福祉への関心があまりないというのが少し寂しいかなと感じました。また、里親じたいがあまり知られていないので少しずつでも広めることが出来たらいいなと思いました。



マルタ大会感想

黒河内優美

今回 IFCO 世界大会は、マルタ共和国での開催でした。地中海に浮かぶ小さいけれどとても歴史のある美しい島でした。

ユースプログラムは、世界各国から集まった人たちとアイスブレイクのような簡単な遊びを行った後、国ごとに里親や里子の制度や現状についてまとめて全員の前でそれぞれ発表しました。会話もかなり専門的な英語で難しかったし、自分の国の制度や現状も充分には知らなかったので辞書や携帯などを使って自分たちだけでまとめ、発表の際は大人の人が手伝ってくれたおかげで無事に伝えることが出来ました。

また、ユースの中で年齢ごとに分かれて勉強したとき私たちは、他の人達の幼少期の話を聞きました。通訳してくれる人が付いてくれたので、内容を理解することが出来たので良かったです。体験談の中には、とても悲惨なものもあり驚かされました。国ごとに制度の違いにより子どもへの影響や問題は大きく異なっていました。

例えば、アメリカには里子だけが集まる団体があり、その団体で制度の問題や里子への対応の仕方についての問題、要望などを政府と話し合う場を設け討議しているといいます。

また、マルタ共和国の大統領本人が私たちユースの活動を見学に来て、言葉をかけてくれました。日本では世界大会という大きな大会があったとしても、そこに首相本人は現れないでしょう。現在、日本の政府は子どものことに焦点を当てているが、そもそも現状をどこまで見ているのだろうか。国会で話し合っているだけで現状をどれだけ理解してもらっているのか。経済先進国と言われる日本の児童福祉が他国より遅れているということは感じていましたが、改めてそれを実感する4日間になりました。

私は現在、福祉系の大学に通い福祉の様々な分野について学んでいます。将来は、私たち里子や被虐待児を救う仕事に就きたいと考えています。しかし現在の日本の制度や体制では、本当に里子や被虐待児を救い社会へ自立する制度が充分だとは思えません。国ごとに様々な課題や問題はありますが、しっかりと自国の課題や問題、良い部分を理解しながら、マルタ大会での経験をこれからの勉強に活かしていきたいと思います。

最後に、このような機会をくださった皆さんに感謝します。ありがとうございました。

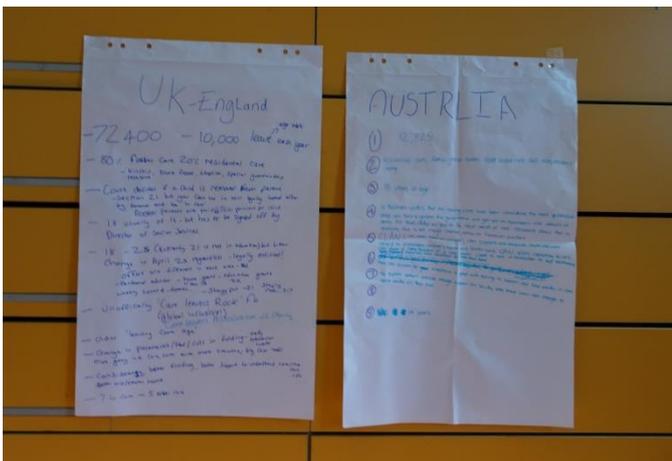
私は、今回3度目で初めてリーダーという立場に参加させて頂きました。最初は、きちんとリーダーの役割が務まるだろうかなど不安しかありませんでした。しかし、周りの方々からの励ましで頑張ろうと思いました。

会場には、アメリカ・オーストラリア・アイルランド・イタリア・開催国のマルタなどから、沢山のユースが参加していました。皆、私と同じ養育家庭経験者や施設出身者、今も養育家庭や施設で生活している方でした。

ユースプログラムは、自己紹介とゲームをする以外に各国に分かれ社会的養護について考えて発表し、意見交換をしました。途中、子供に聞かせる歌の紹介があり各国の様々な歌を聴きました。私達は、『アンパンマンマーチ』を紹介しました。歌の意味を説明したら皆驚いていましたが、日本で有名な歌を知ってもらえて嬉しかったです。話し合いでは、日本以外の国の社会的養護の現状を知ることが出来ました。日本と同じく措置解除年齢が18歳であったり、措置解除後は生活している苦労しているなど日本との共通点が多い中、措置解除年齢が18~21歳までと長かったり、社会的養護への認知度が高く、措置解除後のケアが充実していたりと日本とは違う部分も見え、日本の社会的養護はまだ遅れているなど実感しました。

また今回、小さい頃に辛いことがあり社会的養護を受けた経験を活かし、世界で講演会やユース活動をしている方と話す機会がありました。話を聞いている中で、私が目指そうとしている活動に何が足りないのか、何をしなければならないのか改めて考えなければと思いました。

マルタで過ごした5日間は、あっという間でした。その中で沢山の方と出会い、考えを知り思いを知ることができました。それは、社会的養護を必要としている子供達のために、自分が経験してきたらこそどうしていくことが大切か今もう1度考えることが出来たからです。今回のIFCOで学んだことを多くの方に発信していけたらと思います。最後に素晴らしい機会を与えて下さいました、日本財団・東京東養育家庭の会の皆様に感謝致します。ありがとうございました。



ユースの集い in 滋賀

<ユース集い報告>

8月19、20日に西日本ユースの集い「29ユースの集い in 滋賀」を大津市にて開催しました。

今年の西日本大会は滋賀県でお願いしたい、との依頼があり、里親連合会里子等自立支援専門部会と里親支援機関からなる実行委員会を立ち上げました。本来、ユースの集いはユース自身が運営に携わるものですが、滋賀県では初めての試みということもあり、里子に関わる大人が実行委員としてユースの集いに臨みました。

参加者は滋賀県から2名、他県から1名の3名でしたが、スタッフを含めた参加者全員で話をしたり、それぞれのお話をゆっくり聞くことができたりと、少人数であることの利点が上手く作用した2日間だったように感じます。

1日目 8月19日（土）

13:00 比叡山坂本駅集合。他県から参加のAさんはどんな子だろうとドキドキ。送迎の車の中でお話し上手な子とわかり一安心。

13:45 オリエンテーション。自己紹介とスケジュールの確認。当初のスケジュールは15名の参加を想定したもので時間的にも余裕があったため、みんなで相談し、雄琴温泉の足湯とボーリングに行く予定を追加しました。その後、アイスブレイクを兼ねて、全員でトランプ大会。

14:30 大津市ロケ地めぐりパート1。ただの散策ではユースの心を掴めないと考え、ロケ地めぐりと題した散策を企画。ここにキムタクが！ここで佐藤健が！と言いながら日吉大社を散策しました。

16:00 雄琴温泉足湯。足湯につかり、のんびりとおしゃべりタイム。琵琶湖テラスのポスターを見つけ「来年のユースはこのメンバーでここに行けたらいいな」と次回についても話し合い。

18:30 里子によるLive。FHで生活するユースがギターの弾き語りをしてくれました。話し声より少し高い歌声が夕方から夜へと移り変わっていく時間帯にマッチしていて、とても素敵でした。

21:00 自由時間。入浴後はカードゲーム「なんじゃもんじゃ」で大騒ぎしました。

2日目 8月20日（日）

6:30 西教寺朝のお勤め。希望者は朝のお勤めに参加し、めったに体験できない時間を過ごしました。

9:15 大津市ロケ地めぐりパート2。近江神宮と三井寺を散策。映画のシーンを再現し、写真に収めました。

11:30 焼肉食べ放題。「お肉でお腹いっぱいにして！」を合言葉にお肉を堪能！

13:00 ミシガンクルーズ。琵琶湖の風に吹かれながら、のんびりと一時を過ごしました。琵琶湖を眺めながら仕事や受験の話をし、それぞれが日常へ戻っていくために必要な時間を過ごしたようにも感じました。

小嶋会 心理訪問支援員 大江 道子

滋賀での集いをサポートして

池戸 剛

今回のユースの集いを滋賀で開催してもらいたいとの話を聞かせて頂くまで、こうした集いが以前から開催されていたことを初めて知りました。里親家庭やファミリーホームで生活している子どもたちが里親等を含め、人間関係において信頼できる人との出会いや信頼関係を構築してあげられるような機会を提供してあげることが大人の役割だと強く感じていました。そして、子どもたちの自立や将来を考えると、社会に出て孤立しないためにも、里子同士の繋がりもとても大切だと思います。そういったことから、ユースの集いは大変良い機会になると思います。

今回、滋賀で開催してほしいとの話を受けて、実行委員会でまず滋賀の魅力をいっぱい感じてもらいながら、子どもたちに楽しんでもらいたいと相談を重ねました。当日の参加者は少数ではありましたが、アットホームで終始和やかな雰囲気では、特に里子によるギター演奏やゲーム大会や夜の雑談なども時間が足りないほどでした。また、大津ロケ地めぐりでは、神社・寺院の歴史を学んでもらいながら、映画、ドラマ撮影と同じカットで写真を撮ったりと楽しんでもらいました。今回仲良くなれた特に県内の子には、これからも顔を合わす機会があると思いますので、声を掛けていきたいと思っています。ユースの集いが今後も子どもたちにとって大きな役割を担ってほしいと思います。



「ユースの集い in 滋賀」に参加させていただいて

元藤 透

ユースの集い in 滋賀に参加させていただき、ありがとうございました。私は1日目のスタッフとして参加させていただきました。ユースの子どもたちとトランプやボーリング、夕食も一緒に食べ交流をさせてもらい、スタッフとして参加したのですが、久しぶりに童心に返ったように楽しい時間でした。ありがとうございました。また、うちの子どもがイベントでギターの弾き語りに参加させていただき、誠にありがとうございました。本人にとっても貴重な機会喜んでいました。今後、機会がありましたら、うちの他の子どもたちにも参加してもらいたいと思います。



元藤 勇生

弾き語りの短い時間でしたが、参加させていただき、ありがとうございました。次の機会があればもう少し長い時間参加したいと思います。また、弾き語りをする機会を与えていただきありがとうございました。



牧野和希

今回大阪から参加させていただきました。大阪以外のユースってどんな感じだろうなと思い、参加しようと思いました。

ユースが話すやつがあるっていうのを知らなくて、急に始めてびっくりしましたが、興味があったのでよかったです。

そのときにみんなの話をきいて思ったことは、養子だからっていじめられたりした子や、不満を持っている人が多いなって思いました。

あの場で言う時間がなくて言えなかったんですが、そういう生活しづらい環境がなくなるにはまず里親制度を一般の人に知ってもらってというのが一番重要ななと思っています。養子になるっていうのは、いろいろ家庭の事情もあったりするので、そういうのはあるもんなんだと理解してくれる環境があるっていうのが、子どもたちには一番過ごしやすい場所だと思います。なので、制度をどうしたらいいとか、施設の人がどうしてほしいとかも必要ですが、それよりも、そういう過ごしやすい環境をつくっていく、ということも必要だと思います。

今回はユースが施設の人とかに、どうしてほしいかっていう話だったのですが、次は制度を知らない一般の人向けに里親制度を知ってもらおう、という話も今後のユースでしていけたらいいなと思いました。



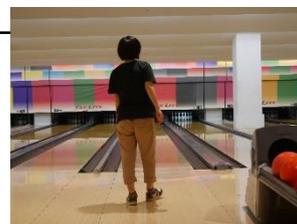
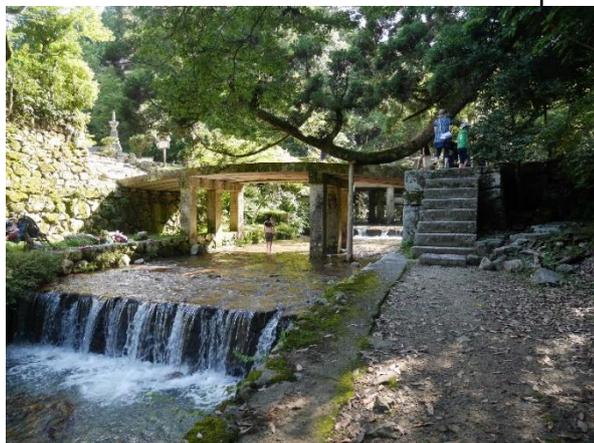
楽しかった塩賀での集い

英 日奈子

大津のロケ地巡りやミシガンにのったり、みんなで遊びに行ったりとっても楽しい2日間でした！

今回は参加者が少なかったですが、少なくともまた参加したいです！

そしてもっとたくさんの方が参加して、たくさんの方と繋がれたらいいな—と思いました！ 最高に楽しかったです！



ユースの集い in 東京

夏の集いに参加して

日高 桃加

今回、2回目の参加ですが、前と比べて人数も少なくびっくりしましたが、みんなの名前も覚えやすく色々な事を話せたので良かったです。やっぱり同じ環境の子が集まると気をつかわずに話せるのでいいなと思いました。

夏の集い感想

阿部 まりあ

初めは少し行くことにためらいがありましたが、自分と同じ気持ちや同じ悩みの人がいてずっと自分だけだと思っていたけど、違うってことが分かったので来られて良かったです。



ユースの集いに参加して

高山 優斗

夏のユースの参加は何度目かになります。最初に参加した時は、高校生だったと思います。その時は、自分の事をあまり話さなかったか記憶もあり、ただ、みんなも少なからず「里子」という事で、悩みや不安が同じで自分だけではないと感じました。今回は20歳になり参加した事も回を重ねて参加していることで少しだけ自分の時はこうだったけど、大丈夫だよと言える事も出来ました。参加するたびにホッとする仲間たちに出会えてよかったです。

ユースの集いを終えて

作田 成美

皆、それぞれ不安や悩みがありどうしたら良いのか分からない事が多くありましたが先輩や同年代の子の意見や話を聞いて、少しでも不安解消になってくれたら良いなと思いました。来年のユースも皆さんに会えるのを楽しみにしています。ご多忙中、参加していただきありがとうございました。



ユースリーダー会議

ユースリーダー会議に参加して

作田成美

2017年12月16日（土）国立オリンピックセンターにてユースリーダー会議を行いました。今年度は施設長の方に司会進行をしていただき、何名かのユースに幼少時から今までの経験を語ってもらいその後、質疑応答をしていくという形式で行われました。

どの、ユースもきちんと内容に関して自分の意見を述べられていたのが素晴らしかったと思います。

その後、ユース会議を行い来年度の活動内容や目標を話し合いました。なるべく、多くのユースに参加してもらいたいのですが、多忙の中での活動なので集まりにくい現状となっているのが残念という意見が多かったです。少しでも集まれるよう考えなければと実感しました。会議後は、忘年会と打ち上げでした。みんな楽しんでくれたようで安心しました。

何事もなく終わらせることができ良かったです。本当に楽しい1年でした。



「ユース」大いに語る！！

西台こども館 施設長 斎藤 学

内 容：日本フォスターケア研究会
総会・第四回研究大会 ユース「大いに語る！！」
実施日：平成29年12月16日（土）



コーディネーターとして参加させていただき

全国から集まったユースの方たちが様々な意見を語り参加者（聴衆）も意見を述べる場でした。里親家庭、養子縁組家庭と育った環境はそれぞれ違いますが、客観的にそして冷静に「語る場」であり、とても有意義であった気がします。語り・共感し・連帯して現在の糧にしており、皆で支え合っている様子が伝わりました。話された内容は門限の事、自立についてのこと等様々でした。おそらく立場が違えば意見は異なることになるとは思いますが、参加者（聴衆）からも積極的に意見が出されていました。

全体を通して、社会的養護としてこどもの権利を積極的に尊重する姿勢、及び意見を聞いていく制度が必要であると感じました。今活発に活動しているユースの皆様が、社会的養護で育ちの場を提供している大人たちとともに新しい時代をつくりあげていくのだと実感しました。最後にあるユースの方から「里親は私にとっては親です」との発言が印象的でした。



フェイスブック

フェイスブック「ユースひろば」を立ち上げました。29 ユースの集いの活動の中で SNS を使った交流の場を作れないかと考えました。ユースは年頃から見て皆忙しく交流と言っても時間が作れません。また、里子は横の付き合いのないままに独立していきますので、里子同士の付き合いが成立しにくい現実があります。

たまたま「つつじ作業所」との出会いがあり、ユース3人と作業所の方と話し合いを始めました。ラインとフェイスブックのどちらを使うか2案が出ましたが、フェイスブックを使うことでスタートすることにしました。目下、数人でやりとりをして使い勝手を試みているところです。

そろそろ広く呼びかけようと思っていますので、関心のある方は是非アプローチしてみてください。自宅から参加できますので、一度登録してみてください。以下は私の呼びかけ文です。

いつからだろう、自分の生き立ちを気にしなくなったのは…
だけど、自分が変わった存在でいたことに悩みもがくこともあった。
それでも周りの先輩や友達、色んな人に出会い
今の自分になった。

今さらだけど、何も悩みなさそうだねと言われたコトもあるけど、それはきっと個性だったと思う。

変わってるって言われる方がらしくいられる、
キーワードだったのかもしれない。

普通に生きるって案外難しいと親になって思う。

誰の為と思ってやってるわけでは無いけど、講演会に呼ばれて話しをすると、『ホッとした』と声を掛けてもらえるだけで今までの恩返しが出来ている気がする。

気が向いたらでも理由はなんでもいい。
広場を通じて生の経験談をみんなに伝えて欲しい。



29 ユースの集い 事務局から

今回の集い事業については、計画と実施にあつてはユース自身が担うこととした。里親会としては、これまでの経緯から助成金の申請から監査を受けるまでの金銭の関係する分野に軸をおいた。更に、集いの場面には里親は同席しないことを前提としたので、実のところどのような交流があつたのかも分からない。集い後に参加者に寄稿して貰う形式を採り、強く原稿提出を求めることも控えた。この報告書も仕事の合間を使ってユースがパソコンを操作して作成し、里親会としては側面からお手伝いした。これまでのユースの動きとユースの定義などこれからの活動に役立ちそうな面を書き加えさせて貰った。この他にも幾つかのグループが活発な活動しているが、今回は里親会として関与した部分のみを記してみた。

1. これまでのユースの動き経緯

- 13年頃 : さくらネットワークプロジェクト全国里子会(事務局: 全国里親会)
- 20年頃 : " (事務局: アン基金プロジェクト)
- 24年 : ユース IFCO 大阪大会プレ活動
: プルガリア大会に4名参加(資生堂助成金と自己負担で)
: IFCO ユース実行委員会スタート(山形大会でのアピール)
- 25年9月 : IFCO大会ユースの集い
- 26年1月 : IFCO報告大阪集会
- 26年7月 : 静岡ユースの集い / (関プロ大会と同時開催)
- " 10月 : 岡山ユースの集い / 岡山全国大会と同時開催 (日本財団助成)
- 27年7月 : 東日本ユースの集い / 関プロ長野大会と同時開催 (")
- " 10月 : 西日本ユースの集い / 鹿児島全国大会と同時開催 (")
- " 11月 : IFCO シドニー大会派遣 (")
- 28年8月 : 東日本ユースの集い / ユースホステル・お台場 (連合助成)

2. 29 企画に向けて

- 28年9月 : お台場チームによる検討会
- " 10月 : 日本財団に助成金申請
- 29年3月 : 助成の内報を得て、実施里親会打診。
- " 4月 : 29年度実行委員会スタート、会場の予約などの作業開始

3. 会計報告

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
助成金収入	日本財団助成金	1,800,000	マルタ派遣	4名派遣	1,391,000
負担金収入	参加者里親会負担金	120,000	夏の集い	東京都、滋賀県	314,000
	ユース負担分	293,000	SNS 活用連絡	検討・試験実施	88,000
寄付等	日本フォスターケア研究会	50,000	リーダー研修	1泊、交流会	170,000
	個人寄付	22,500	実行委員会	会議、旅費、講師派遣	182,000
			その他	案内・報告書・送料	140,500
合計		2,285,500	合計		2,285,500

- ・支出は事業別に掲載した。
- ・科目毎の決算を含む計算書は、日本財団の監査を受けた後確定する。

編集後記

林 櫻

私はユースの活動をしていて、参加者としての一面と実行委員会のメンバーの一員としての面をもっていました。そんな立場から一言・・・。

参加者としての一面は、里親さんの下で暮らして人や、以前に里親さんの下でお世話になっていた人の話を聞いており、十人十色の家庭があることが今さらながらわかります。いろいろな意見を聞く度に視野が広がりました。例えば、ユースの集いで話を聞いて学校や家庭で里子として困ったことや制度上の問題に話が及ぶと、共感してくれる部分や他人の話に共感できる部分が沢山出てきます。私だけでないという思いでとても安堵いたします。

実行委員会のメンバーの一員はまだ1年を経っていないのですが、年下の高校生の帰宅時間を気にすることになります。私は18歳を超えているので、大人としての自由が増える反面、責任を感じます。そんな時間おことを考えながらユースの活動内容を見られるようになりました。私は自分の意見をはっきり言うので「皆にドン引きされていないかな？」などと考えながら日々の行事に参加しているところです。

私はいつもユースの活動になると、仕事の関係で行事に遅刻したり早退したりが多くなるので「皆と馴染めないかな？」などと心配してしまいます。行事に参加して心配してくるのは、実行委員として最初から最後まで参加していない申し訳なさです。参加されるユースの方々ののおかげで、行事が成立していることは心に留めおきたいと心に決めています。いつもユースの活動に参加し賛同していただいている方々、本当にありがとうございます。周辺で支えてくださる方々を含めて、これからも今と変わらぬ温かなご支援を宜しくお願い申し上げます。



発行日	平成30年3月10日
編集／発行	29ユースの集い実行委員会
代表	作田成美
連絡先	NPO法人 東京養育家庭の会
協力	公益財団法人 日本財団